

目次

愛のことだま

言霊芸術論・評論・詩

第一部 言霊芸術論 デクノボー方式朗読法 15

序章 いのちと美、人の進化のためにある揺れる吊り橋 17

一、人は悪魔か、大馬鹿か？ でも進化の未来あり 19

二、人は神の子、媒体浄化が進化の階段 22

三、宇宙には見えない癒しの風吹く 25

四、美とは、癒す、愛す、いのちの垣間見か 29

第一章 デクノボー方式朗読法 33

第一節 癒しの朗読というものがある 35

一、癒しの朗読 35

(癒しの朗読法 (三原則)) 37

二、デクノボー方式朗読法 37

第二節 テクノボー方式朗読の理論と実際 ——— 41

一、なぜ一音一音を大切にするか ——— 41

二、一音一音を大切に発声する方法（テクノボー方式朗読法の基礎） ——— 49

「拍打ち朗読法」 ——— 52

第三節 召使い朗読練習法 ——— 54

一、感動が朗読の生命（感動とは癒し癒されること） ——— 54

二、テクノボー方式朗読練習 ——— 55

第四節 朗読の姿勢と声 ——— 70

一、姿勢 ——— 70

二、声 ——— 71

第二章 評論 「癒す者」としての宮沢賢治 ——— 77

芸術の原点に立っていた宮沢賢治 ——— 79

芸術には役割がある —— 83

古代の自然観、生命観、人間観 —— 86

自然、ミューズ、呪者 —— 88

詩・音楽・自然との一致の実証 —— 90

終章 詩の朗読ということ

—— 『名詩朗読でつづる日本の詩史』あとがきより —— 95

ことばについて —— 97

朗読ということ —— 99

朗読詩話会のこと —— 100

『名詩朗読でつづる日本の詩史』とその周辺 —— 103

コトバの声の宣言（詩は声である） —— 107

第二部 詩 山波言太郎 愛のことだまアンソロジー
.....
111

序詩 ——— 113

草笛 114

手負猪の詩 118

同年の兵士達へ 120

戦い終らず — 故 孫尾徳次郎少尉のうたえる 124

人へ 128

鷺ペン — 一九九九年のために 132

淋しい時代 — オルフェウスのように — 138

旗を立てて 146

アオミサスロキシシ伝説

.....

150

深手

.....

154

見つめる目

.....

156

大空をとぶ鳥のように

.....

158

風のうた

.....

164

草山の歌

.....

168

あとがき

.....

172

初出一覧

.....

180